巻 頭 の 辞

先端社会研究所が 2008 年に開設されてから 6 年が経過しました。これまで活動を続けて来られましたのは多くの皆様のご支援によるものです。心より感謝申し上げます。

本研究所では『戦争が生み出す社会』シリーズ（新曜社）を順次刊行し、『関西私鉄文化を考える』（2012 年、関西学院大学出版会）に続くブックレットとして『フィールドは問う』（2013 年、同上）も出版しました。各種のシンポジウムや研究会をおこない、大学院生・研究員を対象に毎年実施しておりますリサーチコンペ事業の成果も上がっております。

本研究所はこのように活動を続けて参りました。しかしつねに順風満帆であった訳ではありません。特に 2012 年の初夏に実施された事業評価によって体制の改変が必要となりました。本学の学長・副学長をはじめ、多くの方々と話し合う機会を頂き、また多くの方々のお力添えによりまして、2013 年の秋には存続が決まりました。

もっとも、本研究所の体制はこれまでと完全に同じではありません。何よりも予算の削減は避けられませんでした。また、この紀要は、指定研究や公募研究、リサーチコンペなど本研究所で行っている諸研究の成果報告の場でありますが、予算の削減はもとより、成果報告をおこなう研究員が少ないなどの理由から、発行を年一回へと縮小することとなりました。

先端社会研究所では「他者問題」や「包摂／排除」をキーワードに研究・教育活動をおこなって参りました。他者をめぐる問題はきわめて普遍的で、同時に喫緊の課題でもあります。この世界で生じている様々な問題に対して十分な時間をかけながら、しかも休むことなく取り組んでいかねばなりません。この紀要は本研究所にとって唯一ではないにせよ主要なメディアであり、この場を通じて普遍的で喫緊の課題が次々と提示され、議論されることが求められているはずです。過去二年間に関して言えば、「議論の場」を提供するという点で現執行部には企画力に問題があったかもしれません。来年度には、いずれも社会学を専門とする新たな所長、副所長を迎えます。新体制の下で、本紀要がより良い議論の場となるよう努力するという点について、本研究所の研究員が銘記すべきであることは言うまでもありません。

皆様にもどうか今後とも先端社会研究所と本紀要へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

2014 年 3 月

関西学院大学先端社会研究所

所 長 山 口　　覚

副所長 李　　建 志